

4 中世の柱穴群

古代建物跡のほか、円形の柱穴群を約 300 基検出しました。その多くから、中世土師器（かわらけ）^{はじき}が出土することから、中世の建物跡が複数存在していたと考えられます。中には、柱を抜いた後、土と一緒にかわらけを埋納したような柱穴（下写真）

も確認されました。

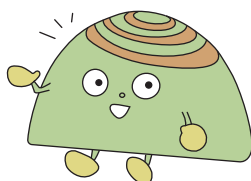
平浜八幡宮や八幡荘^{やわたのしょう}に関連する施設が建っていたのかもしれませんが。



かわらけが出土した柱穴（C 区）

平浜八幡宮と八幡荘

平浜八幡宮は石清水八幡宮（京都）の別宮として移され、12 世紀頃にはすでに成立していたことが分かっています。当社は寺院的な役割も担い、国分寺や国分尼寺が衰退した頃には代わりに仏事を行うなど、国の宗教的機能も果たしていました。また、現在の八幡町付近を中心に八幡荘が設置され、主に中海沿岸や意宇川旧河道部の開発拠点としても機能していたと考えられています。



5 八幡鹿島山遺跡のすがた

八幡鹿島山遺跡周辺では、遅くとも縄文時代にはすでに人の活動があったことが分かりました。また、弥生時代の土器や石器類も多量に出土し、特に黒曜石製の石鏃を多く製作していたと考えられます。

古墳時代の遺物としては埴輪が出土しましたが、先般新発見された「八幡鹿島山古墳」出土の埴輪より時期が新しく、周溝とみられる溝を検出したことから、当地に古墳があったと考えられます。そして、古代には大型建物が設置されたこと、また中世にも複数の建物が建っていたことが新たに判明しました。

これまでの研究で、古代において意宇川は大きく蛇行しており、当遺跡はその河口付近にあたると想定され、周辺には港やこれに関連する施設があったと想定されていました。今回新たに発見された古代大型建物跡がそういった施設であったのか、出雲国分尼寺関連の施設であったのかは今後の検討課題です。

いずれにせよ、八幡鹿島山遺跡周辺は、古代出雲国を考える上で非常に重要な場所です。



八幡鹿島山遺跡周辺の復元
(八雲立つ風土記の丘展示室ジオラマ)



■ 古代の意宇川想定流路 ■ 八幡鹿島山遺跡

やわたかしまやま

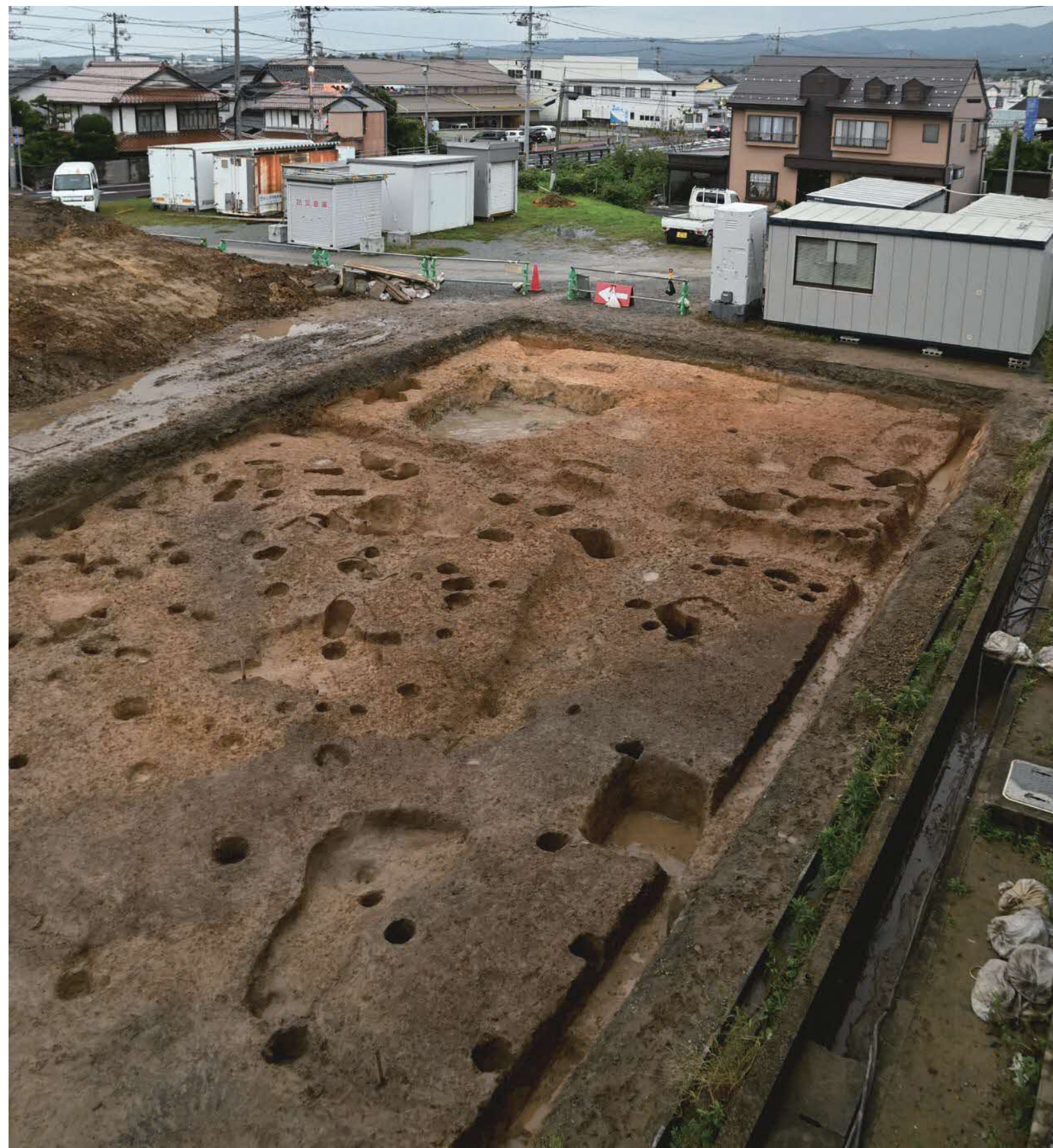
八幡鹿島山遺跡 発掘調査現地説明会

日程 令和 6（2024）年 11 月 30 日（土）

時間 13：00～

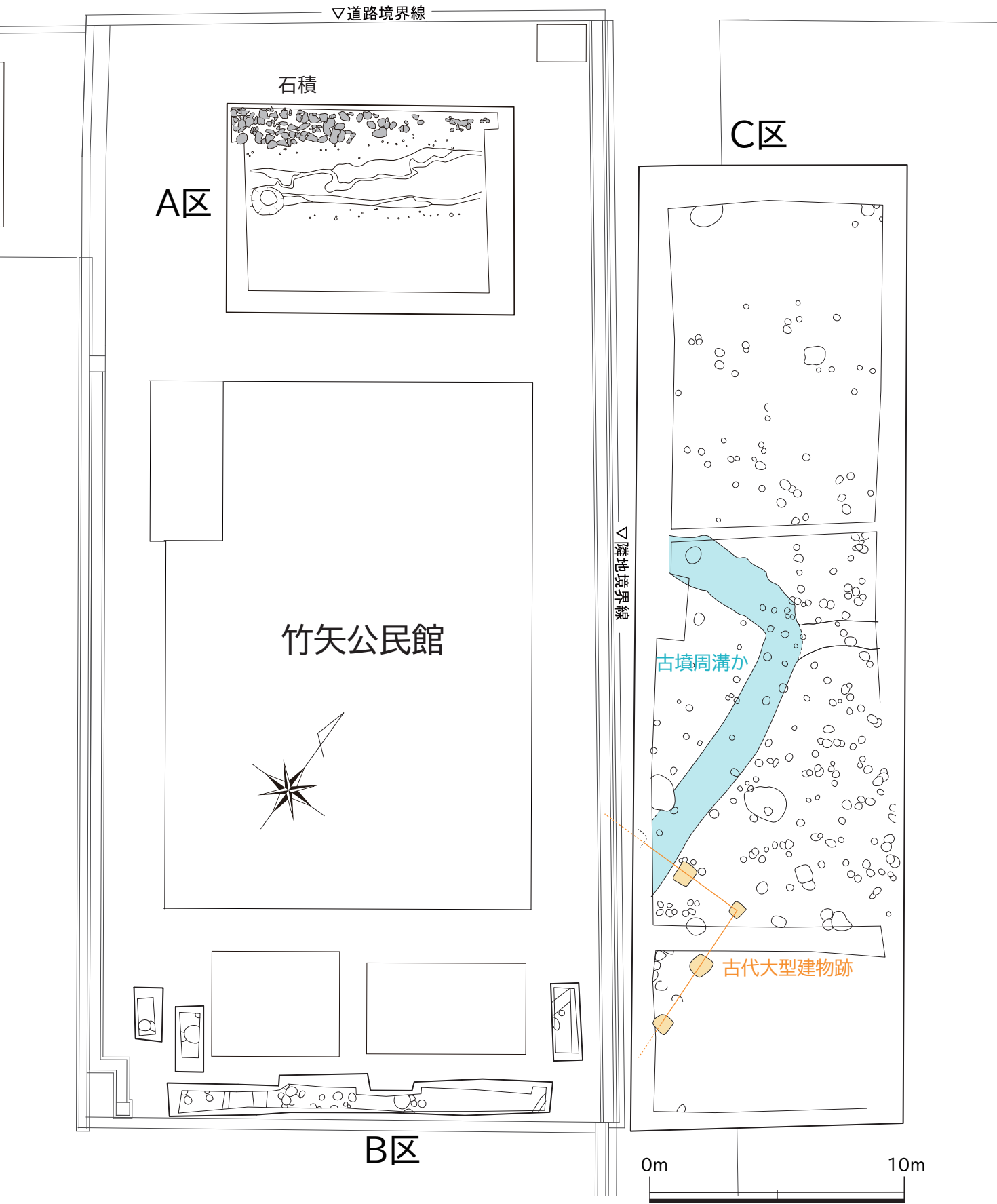
場所 島根県松江市八幡町 279-1（竹矢公民館建設予定地）

松江市埋蔵文化財調査課



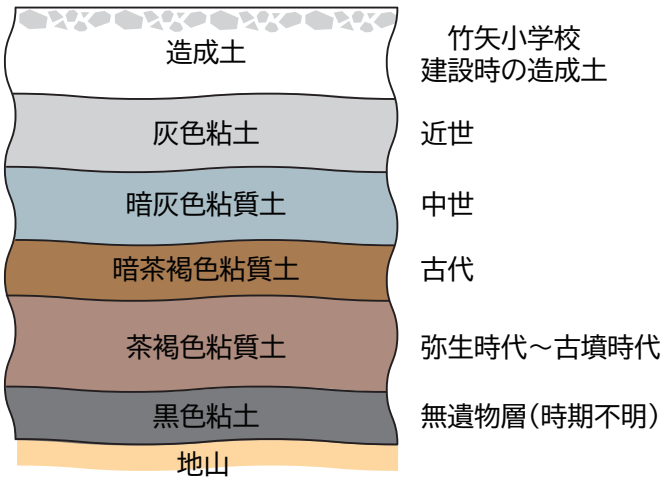
1 発掘調査の概要

松江市埋蔵文化財調査課では、令和6年5月から竹矢公民館整備事業地内の発掘調査を行ってきました。その結果、縄文時代から中世にかけての遺跡が存在していることが明らかとなり、貴重な調査成果を得られました。



八幡鹿島山遺跡 簡易平面図

基本層序（C区北壁）



いしさじ さっき
石匙と削器
縄文時代



黒曜石（石鏃）
縄文～弥生時代



碧玉（管玉）
弥生～古墳時代



埴輪
古墳時代後期初頭



せきすい
上段：石錘 縄文～弥生時代
どすい
下段：土錘 弥生時代

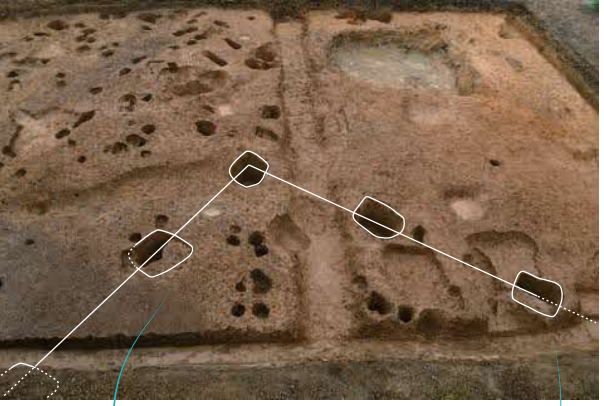


墨書土器
古代

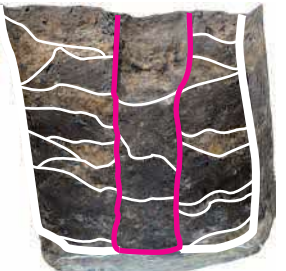
3 古代の大型建物跡

C区の南側において、古代の掘立柱建物跡を検出しました。出土した遺物から、奈良時代頃の建物であると考えられます。建物の規模は東西2間(4.7m)以上×南北2間(5.2m)以上であり、調査区外に広がる可能性もあります。柱穴の大きさは1辺約80cm、深さ約70cmの比較的規模の大きなもので、大型建物が想定されます。

女性の名前とみられる墨書土器が出土したこと、中海に近い意宇川河口付近に立地することから、出雲国分尼寺や港の関連施設にあたる可能性があります。



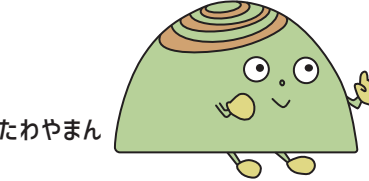
古代大型建物跡



SPC235



SPC230



黄色い地山と黒色土を交互に
突き固めて柱を埋めているね。